世界が進むチカラになる。

MUFG

MUFG 工芸 プロジェクト

MUFG KOGEI PROJECT

これからの、
ものづくりの物語を。

これまでの日本の道のりは、

ものづくりという文化に携わった

作り手や支え手の存在、無くして語れない。

人びとの暮らしと共に発展してきた

伝統的な工芸文化や技術の数々。

今それらの多くは、

ライフスタイルの変化や素材の減少で、

存続の危機に直面している。

長い道のりを閉ざさないために、

技術を研鑽し、発想を転換し、

工芸に向き合い続ける人たちがいる。

そこには、伝統を大切にしながら、

現代に生きる工芸を生み出すチカラがある。

これは、単なる工芸だけの物語ではない。

激しい変化の時代に生きるすべての人が、

生き抜くためのイノベーションのヒントになる物語。

これからの時代の挑戦と変革を応援する。

MUFGは、あらゆる人の、文化の、産業の、

世界が進むチカラになる。

工芸の伝統と革新を通じて魅力に触れる

日本の伝統工芸は、長い歴史の中で自然素材と向き合い、その時代に合わせた革新を行うことで発展してきました。近年、様々な視点に基づく革新的な挑戦が新たな作品を生み、注目を集めています。現代のライフスタイルに沿った多種多様な工芸の革新の一部をご紹介します。

人材育成の視点からはじまる、工芸の革新

あかいりんご / 南部鉄瓶

「分業が当たり前の伝統工芸の世界で、
若手が一人でも作品を創りあげられる達成感を得られるようにしたい。」

約400年前に茶の湯の道具としてはじまり、近年では、お湯がまろやかになり鉄分補給もできるとして、国内のみならず海外でも人気の南部鉄瓶。田山さんは、20代後半に東京の会社員からUターンして南部鉄瓶の職人で「現代の名工」でもある父に師事することを決意。修業する中で、全制作工程の習得に30年以上かかる人材育成の方法に疑問を感じました。長期の育成は経営面から見ると投資がずっと続くことを意味します。若い職人にとっても一部分の作業ばかりではやりがいを実感できない。そこで、田山さんは工程や技術を体系立て、若手職人が短期間で全制作工程を習得できる方法を研究しました。その結果生まれたのが、シンプルなデザインの鉄瓶「あかいりんご」です。人材育成の視点からはじまった革新はデザインの革新も生み、技術と文化を継承しています。

タヤマスタジオ株式会社 代表
田山 貴紘

鉄瓶は、使えば使うほど内側に「湯垢」がついていきます。湯垢は決して汚いものではなく、むしろ湯垢がつけばつくほど白湯の味わいがまろやかになるというもの。鉄瓶の経年変化を楽しみながら、長く付き合っていきたい作品です。

生き残りをかけた、用途の革新

高野槇 WAVE / ワインクーラー・テーブルウェア

「伝統の文脈から見れば突然変異のような木桶を作っていくと、その中のいくつかは次の時代に適応するものが生まれる。」

木桶は約700年前に大陸から伝わったとされる技術。京都の桶屋「中川木工芸」に生まれ、大学で美術を学んだ後、人間国宝（木工芸）の父に師事した中川さんは焦っていました。「お風呂の桶、ご飯のおひつなど、木桶が現代人の生活からどんどんなくなっていく。祖父の代に250軒あった桶屋は今では数軒、このままでは桶屋はなくなってしまう」。そこで中川さんは、桶の「水に強く、保温性に優れ、結露しにくい」という特徴に着目。現代のニーズに合わせて桶をシャンパンクーラーとして用途を革新させ、世に出しました。有名シャンパンメーカーの公式シャンパンクーラーとなるだけでなく、国内外の美術館やレストラン、個人に愛され、使われています。

中川木工芸 比良工房 主宰
中川 周士

風呂桶の材として珍重されてきた高野槇や檜を用いて制作したシャンパンクーラーは、シャンパンを冷やしても、日本酒を冷やしても、和洋を問わず端正なたたずまいを楽しむことができます。

伝統工芸の世界に、女性グループが吹き込む新しい風

「たくさんの人とリンクして、多くの人に伝統工芸の魅力を届けたい。」

東海地方で活動する女性の職人9人が立ち上がり結成されたグループが「凛九」です。伊勢根付、有松・鳴海絞、伊勢一刀彫、尾張七宝、豊橋筆、伊勢型紙彫刻、伊賀組紐、美濃和紙、漆芸というそれぞれの技を受け継ぐ女性たち。伝統工芸の技術を受け継ぎつつ、女性らしいしなやかな感性で新しい作品作りを行っています。従来の重厚で厳しく寡黙なイメージから、爽やかに、優しく、好きを突き詰める伝統工芸へ。伝統工芸の魅力を女性視点で発信していくことで、工芸を身近に、業界の担い手不足にも貢献していきたいと語っています。

凛九

左から）松尾 友紀 / 那須 恵子 / 大須賀 彩
大内 麻紗子 / 代表 梶浦 明日香 / 中西 由季
藤岡 かほり / 田村 有紀 / 太田 結衣

1.

2.

3.

4.

5.

6.

7.

8.

9.

1.蓮・祝い達磨・筍 / 伊勢根付 / 梶浦 明日香
2.彩AyaIrodori＆月之・彩AyaIrodori草履 / 有松・鳴海絞 / 大須賀 彩
3.-遊- no8 no12 no13 / 伊勢一刀彫 / 太田 結衣
4.紺地梅文様七宝宝石箱 / 尾張七宝 / 田村 有紀
5.繋がり 2・+ONE HANA / 豊橋筆 / 中西 由季
6.ヒカリサク-印-・ヒカリサク-刻- / 伊勢型紙彫刻 / 那須 恵子
7.60玉高麗組「雛」/ 伊賀組紐 / 藤岡 かほり
8.ご朱印帳・ポシェット・ノート（染め）・和紙色々 / 美濃和紙 / 松尾 友紀
9.蒟醤小箱-凛-・沈金小箱-包- / 漆芸 / 大内 麻紗子

新しい
才能が生む
次世代の挑戦

Forbes JAPAN
30 UNDER 30
2024 MUFG 特別賞

工芸の革新に、フレッシュな視点で挑戦する三人が、2024年度Forbes JAPAN 30 UNDER 30のMUFG特別賞に選ばれました。自身と徹底的に向き合って創作される三者三様の新しい作品は、これからの工芸を拓いていく大きな可能性を秘めています。

Transform series［光を扇ぐ］ / 刺繍

「あらゆるものが機械で作れる時代に、敢えて人の手で創ろうとする工芸に魅了される。自分にしか創れないものを。」

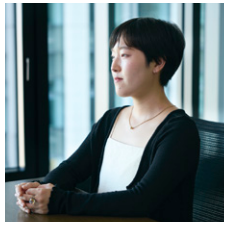
裏側も表と同様に美しく仕上げる伝統的な加賀刺繍に出会い、その技術や心配りに感動した家長さん。その後、加賀刺繍に伝統的な西洋刺繍の立体技法を組み合わせて独自の作品を制作するように。糸の素材選びからモチーフまですべてに独自のこだわりを持ち、精密な作品の中に時間と愛着を縫い止めています。

刺繍工芸作家
家長 百加

Tabula Rasa / 染織

「平面だと思っていた布が立体だと発見したとき、平面ではない織の構造を伝えたいと思った。」

元々ファッションに興味があったが、幼いときに平面だと思っていた布をよく見ると、経糸と緯糸の織りで出来た立体構造であることに面白みを感じ、それ以来「布」の立体性を伝える作品作りに取り組むようになった石渡さん。自身で撚り合わせた糸を全国各地の土を用いて染め、原始的な美しさを感じさせる力強い作品を制作しています。



染織アーティスト
石渡 結

乾漆曲輪茶碗［赤呂］ / 漆芸

「奈良時代の阿修羅像などにも使われた脱活乾漆技法ー樹木を漆という液体と繊維に一度分けて、また人間の手で再構築しているところに面白さを感じる。」

自然素材を使ってできることの面白さを追求することも工芸の良さとし、古典的な技術や材料、道具にこだわりながら、現代アートも意識した新しいアウトカムに挑む野田さんの作品は、伝統と革新を体現する現代の作品といえるのではないでしょうか。

日本現代工芸美術展会員
東京藝術大学 助手
野田 怜眞

工芸の担い手による
次世代育成の動き

（株）堤淺吉漆店 代表 / 漆作家
堤 卓也

実際に海で使用できる、自然の木目と漆の艶が美しいサーフボード。現在普及しているサーフボードと違い、傷ついても修繕が可能で、マイクロプラスチックが出にくい環境に優しい素材でできています。

「漆を次の世代に繋げるために、自分ができることをしなければ。」

漆はウルシの木からとれる樹液。塗料として使え、酸化することで固くなり、耐久性、耐水性に優れた性質のため、古来より建築物の塗装や装飾、器などに使われてきました。しかし近年では合成塗料の普及や「漆はかぶれる、扱いにくい」といったイメージに押され、使用量が激減しています。漆の精製を行う「堤淺吉漆店」4 代目の堤卓也さんは「漆は地球に優しいサステナブルな素材であることを次世代に伝え、漆の文化、産業を未来に残したい」として、次世代の育成・意識変革に力を入れて取り組んでいます。サーファーでもある堤さんは海外の仲間と協力して漆のサーフボードを作り、漆の魅力を若い世代に広めています。子どもたちに向けたワークショップの開催や広報誌の発行など、堤さんの次世代育成の取り組みは続いていきます。

MUFGは工芸作家の
新しいチャレンジを幅広く応援しています。
本リーフレットでご紹介している作家・作品はその一部です。

開化堂

株式会社 金網つじ
金網つじ

アーティスト
桑田 卓郎

ガラス作家
田中 里姫

kanakeno
田山 貴紘

株式会社 堤淺吉漆店
堤 卓也

アーティスト
外山 和洋

中川木工芸比良工房 主宰
中川 周士

建築家・陶芸家
奈良 祐希

陶磁器作家
新里 明士

アーティスト
藤田 和

HOSOO

赤絵作家
見附 正康

漆芸家
室瀬 和美×目白漆學舎

セメントプロデュースデザイン×
山本 裕輔(印伝の山本)

Urushi一滴
大内 麻紗子

彩AyaIrodori
大須賀 彩

一刀彫結
太田 結衣

伊勢根付職人
梶浦 明日香

田村七宝工芸
田村 有紀

筆工房 由季
中西 由季

型屋2110
那須 恵子

藤岡組紐店
藤岡 かほり

紙々是好日
松尾 友紀

刺繍工芸作家
家長 百加

染織アーティスト
石渡 結

アーティスト
野田 怜眞

プロジェクト紹介

三菱UFJフィナンシャル・グループ（MUFG）は当社パーパス「世界が進むチカラになる。」の実現の一環として、2023年より社会貢献活動「MUFG工芸プロジェクト」を開始しました。

MUFGは日本を起点に世界で活躍する金融グループとして、工芸の継承と発展やサステナブルな思想の継承を支援するために「伝統と革新」をテーマとした活動を展開していきます。本プロジェクトでは、工芸ひいてはものづくりの担い手の方々に革新のための挑戦の機会を創出しながら、その努力や生まれる新しい価値や魅力をより多くの人に伝えていきます。

日本人はものづくりの民であり、工芸はその中心に位置する思想です。日本人は長い歴史の中で、自然素材から最先端のテクノロジーまで、素材と扱いを通して様々な革新的なアイデアや技術を生み出して来ました。

「MUFG工芸プロジェクト」は、日本が育んできた「ものづくり」の思想を継承・発展させ、未来へ繋げる活動です。サステナブルでエコロジカルな特質や、グローバルと同時にローカルな特色を持つ工芸の魅力が、今を生きる私たちを刺激し、時代の挑戦と革新のヒントとなる。そのような思いを持って活動を行っていくものです。

東京藝術大学名誉教授
MUFG工芸プロジェクト総合監修
秋元 雄史

これまでの活動

「情報発信」

国内外で工芸の伝統と革新、魅力を発信しています。

当社本館ロビーで実施した
展示会の様子

フランスで行われた「日仏フォーラム」（主催：日本経済新聞社）での工芸トークショーと展示会開催の様子

HPやInstagramを通じてMUFG工芸プロジェクトの活動紹介も行っています。

公式HP

公式Instagram

「プラットフォームの創出」

作り手の挑戦を後押しする場や、作り手と使い手が繋がる場の創出を支援しています。

GO FOR KOGEI
2023 協賛

KOGEI Art Fair Kanazawa
2023協賛

「次世代育成」

若い世代の挑戦を応援する取り組みを行っています。

Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2023の
MUFG特別賞として若手の工芸作家3名を表彰

「社員の取り組み」

社員が地域の工房を訪ね作り手の挑戦を学び、社内外に紹介する取り組みや、
地域の工芸品を店内で活用し、お客さまに地域の工芸品の魅力を紹介する取り組みなどを行っています。

社員による工房探訪の様子
(株)マガジンハウス「コロカル」掲載
Photo : Kohei Shikama

当社名古屋ビルでの
ワークショップ開催

MUFG
工芸
プロジェクト